

2030ミライチャレンジプロジェクト - 持続可能な開発目標(SDGs)をテーマに2030年に向けたアクションを創り出すプロジェクト

ひろげる助成

3年目

知識の提供・普及啓発

普及フォーラム参加者	48人
教材体験参加者	651人
今年度計画の達成度	96%
目標達成度	90%



レゴを活用したSDGs視点で課題を言語化

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

授業の関係で実施時間が短い場合もあり、限られた時間で知識提供だけでなく、世界と自分のつながりを実感し、「自分には何ができるか」の言語化まで到達する進捗が難しい。

■ 工夫した点

世界と自分とのつながりを体感できるアイスブレイクやレゴブロックを活用したプログラムを組み込むことで、多くの参加者が「自分の言葉」で言語化ができるようになった。

課題

持続可能性やSDGsという言葉は、日本社会の中で十分に認知されているとは言いがたい。そういった逆風の中で新しい仕組みやプロジェクトを実現できる人材を育成したい。

目標

SDGsをテーマにした持続可能な消費者を生み出すPBL型授業の教材を開発し、全国の中学校・高校・大学など6校で採用され、プログラムの体験者500人以上を目指す。

活動内容と成果

SDGsをテーマに持続可能な社会づくりに挑戦をしている企業、研究機関と協働で中高生を対象とした普及啓発フォーラムを開催し、中高生が持続可能な消費者として日々の消費活動を促し、さらにITリテラシーの獲得と、現実感のある「広く他者を巻き込む」実践活動につながった。さらにこのプログラムを首都圏だけでなく、青森、宮城、大阪、鳥取、福岡などの7校の中高・大学でも実施し、651人の参加を得た。100人以上の大規模ワークショップも実施し、プログラムの運用性の高さも確認できた。



クラウドファンディング制作ワーク風景

全助成期間の活動を振り返って

SDGsの重要度の高まりがある中で、次世代の消費者である中高生や大学生などの学生をターゲットにSDGsの普及啓発活動を、企業など様々なセクターと連携をしながら実施した意味は大きい。特に学校への展開に関しては数値目標が達成できるだけでなく、地域も首都圏以外での展開ができた。また100人以上の参加人数でも実施できたことで、大規模案件にも対応できるプログラムであることが確認できた。



SDGsワークショップ進行風景

| 活動地域 |  東京都

〒151-0064 東京都渋谷区上原2-46-9-2F

電話：03-3466-8028

E-mail：info@junec.gr.jp

http://junec.gr.jp/



今後の展望

SDGsに対する関心の高まりから、本プログラムがさまざまなメディアに掲載されることで、記事を見た学校や教育委員会に限らず、企業などからの依頼が劇的に増加した。2019年度は、学校だけでなく企業や自治体研修などにも展開を予定している。また、ファシリテーション研修も首都圏以外でも開催することで、ファシリテーターの地域での確保にもつながり、各地でのさらなる展開が期待できる。